



坂本理事長

近畿印刷産業機材協同組合(坂本進理事長)は1月30日、シェラトン都ホテル大阪において新年互礼会を開催。組合員らおよそ65名が駆けつけ、新年の門出を共に祝った。また当日は互礼会に先立ち、恒例の新春講演会も併催され、今回は、1979年発売の初代「ウォークマン」の開発エンジニアとしてグループリーダーをつとめ、「ウォークマンの父」とも呼ばれるソニー(株)社友(元副社長)の高篠静雄氏を講師に迎え、「夢を持ち続ける～初代ウォークマン開発の経験から」と題した講演も行われた。

互礼会の冒頭、新年の挨拶に立った坂本理事長は、景気見通しにおいて、10月に実施される消費税増税に懸念を示した上で、長岡藩の藩士・小林虎三郎の教育にまつわる故事「米百俵」を引用。次のように述べた。

「明治初期、北越戊辰戦争に敗れた長岡藩は、七万四千石から二万四千石に禄高を減らされ、窮乏のどん底に追い込まれた。それを見かねた分家が見舞いの米百俵を贈った際に、藩の大参事小林虎三郎が米を藩士に分け与えず、その米の売却金で学校を建てた逸話に由来している。

この決定に抗議して詰め寄った藩士たちに対し虎三郎は『百俵の米も、食べばたちまちなくなるが、教育に充てれば明日の一万、百万俵となる。国が興るも滅びるもごとく人にある。いま苦しくとも明日の長岡を考えてほしい』と諭し、建てられたのが『国漢学校』である。虎三郎は佐久間象山の下で漢学、蘭学を学び、象山門下の英才として、吉田松陰とともに『象門の二虎』と称された方。『食えないからこそ教育をし、人物を作るのだ』という建学の精神は、永く教育長岡の心の中に流れて、山本五十



▲ 講師の高篠氏

六元帥をはじめ、学者、軍人、大臣、外交官、名医、大実業家、教育者、芸術家の知名人を明治、大正、昭和にかけて続々輩出した。

このことは我々企業にも言えることだ。とくに中小企業にとっては、社員教育にける時間も金もないというのが実状かもしれない。私にも痛いほどわかる。しかし、自社の未来を考えるなら他を犠牲にして時間と費用をかけても社員教育を行う必要があるのではないか。目先の事にばかり囚われていては企業の維持発展は望めない」

最後に坂本理事長は、同協同組合が実施する「生産性向上支援訓練」や「働き方改革セミナー」の企画意図を示し、その活用を促した。

この後、柳澤隆司副理事長による乾杯発声で祝宴へと移り、新年を祝う歓談が繰り広げられた後、最後は廣瀬安宏副理事長による閉会の辞でお開きとなった。



## 社員教育で「ものづくり」に夢を

近畿印刷産業機材協同組合 2019年 新年互礼会

1月30日、シェラトン都ホテル

組合員らおよそ65名が出席